

ルーブリック評価入門 ～考える、つくる、活用する～

俣野 秀典(高知大学 地域協働学部／学び創造センター 准教授)

講師略歴

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員、高知大学総合教育センター講師などを経て、2024年より現職。放送大学非常勤講師(ファシリテーション入門)。

教育評価や教育方法を中心に、FDを含めた“Educational Development”に取り組む。高等教育開発の専門家として、学生がもっと学べる授業／教職員がさらに学べるワークショップの開発・支援・実施に携わる。2010年より担当している本プログラムは毎年最高水準の評価を得ている。関連する著書に『大学教員のためのルーブリック評価入門』(共訳、玉川大学出版部)がある。

プログラム概要

成績評価について、多様な評価基準を設定することが求められています。ある大学の『シラバス入力手順説明書』では、“具体的な評価基準はルーブリック評価シートを事前に配布し、配点30点とする”との例が示されており、「ルーブリックって何??」と戸惑われた教員の方も多いと聞いております。

そこで本プログラムは、成績評価の目的・意義から出発して、高等教育において近年注目が集まっているルーブリック評価についての基本的な考え方を理解することを目的として実施されます。

※ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、評価指標として活用されます。本プログラムでは、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクスからなる分析的ルーブリックを主に取り上げます。

※3日目午前に開講される「小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン」において、本プログラムがどのように設計されているかについてもお話しします。協同型アクティブラーニングに興味がある方は受講をご検討ください。教員以外の参加者や再受講も歓迎します。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

- ・目標に準拠した評価方法を習得したい教員
- ・評価について関心のある教職員
- ・協同型アクティブラーニングを体験したい教職員

到達目標

1. 目標に準拠した評価を心がけることができる。
2. ルーブリック評価の意義を説明できる。
3. ルーブリックを授業で活用するための準備ができる。